

2020年5月

あのバブルがはじけた直後の日本経済の落ち込みや、米国に端を発したリーマンショックによる、とてつもない経済崩壊、そして9年前に日本列島を恐怖に陥れ、2万人もの人々の命をうばい、いくつもの東北地方の都市に壊滅的な崩壊をもたらし、さらには「絶対安全」なはずだった福島第一原子力発電所が高さ15メートルを超える大津波に飲み込まれただけでなく、予備電源まで喪失し、ついには炉心が融解して燃料が炉の底を突き破って溶け出してしまった東日本大震災。

そしてその後起こった熊本大地震、さらに、「これでもか」と言わんばかりに本州を襲った集中豪雨、19号台風などに代表される巨大台風、竜巻など、あまり過去には経験したこともないような様々な自然災害が日本各地を絶え間なく襲ってきましたね。そこからようやく立ち直りかけたのが、昨年暮れだったのではないのでしょうか。「来年こそ、良い年でありますように」といつもの大しめ縄奉納にも力が入ったものでした。

ところがどっこい。年が開けてほどなく、私たちの生活を一変させる、「百年に一度」とも言われている災害に私たちは毎日さらされることになってしまったのです。新型コロナ・ウィルスは姿を見せないのにヒタヒタと深刻な被害を日本や世界各国にもたらしつつあります。

今思えば、私たち日本人の反応も鈍かったですね。マスコミは専ら政府の対応のまずさを攻めています、そうした中で日本の医療関係者の方々の文字通り「命がけ」の献身にはただただ頭が下がるばかりです。

ところが、そういう方々の家族などに差別的な発言があると聞くと「情けない」という以上に、日本社会が「呪術にでも縛り付けられたのか」、と疑いたくなるのは私だけでしょうか。

厚生労働省と文部科学省の縄張り争いから、世界中で広く行われ事態の掌握

に貢献しているPCR検査を大学病院や各地域の拠点病院に実施させず、全国の地域クリニックなどにも手を出させず、肝心の保健所は必要な対応ができず、とりあえず国民のガマンだけで一時的な蔓延を押さえ込んできた姿は、70数年前国土崩壊で終わった太平洋戦争で改革のチャンスがあったのに、陸海軍をなくしただけで、国を動かす官僚制度、人事制度、強力なリーダーシップ構築などの改革をほとんど放擲し、いわば「その日暮らし」経済につっぱしってしまったのです。確かに経済規模世界第2位の国にはなりましたが、その「つけ」が今日の事態を招いたといえればむごい言い方でしょうか。

何しろ、一生懸命、超長時間労働に耐えて努力している現場の方々。自分の生活を犠牲にして献身的な努力に明け暮れ、ついには自身がこの病に倒れた人々からすれば、「怒り」と「悲しみ」しかわいてこないでしょう。

ようやく、「緊急事態宣言」によるガマンの結果もあったのでしょうが、感染者の発生は見かけ上は収まってきたようです。もっとも政権中枢の人たちがどこまで実相を理解しているのかは、心配です。

街から一斉に飲み屋さんがなくなってしまうたら、若夫婦が結婚式の費用まで充当して始めたラーメン屋さんが店じまいになってしまうたら、それどころか沢山の人たちが働く場所をなくしてしまうたら、子供たちが食べるものを手に入れられなくなってしまうたら。想像したくありませんがそういう景色が日本中に、世界中に満ちてくるかもしれません。

前回は書きましたが、これだけ高い月謝を払わされたのですから、最早「自分だけで生きている」とか、「自分は一人で生きている」などと滑稽な思い違いだけは一日も早く日本の隅々までなくなることを心から祈るばかりです。

もし、こうした考えの人が一人でもいたら、この国に明るい世の中は来ないでしょう。そんなことは、あってはならない事だと改めてはっきりと申し上げておきます。